

目的意識を育てる学級経営

——進路指導を基盤として——

目 次

| | | |
|-----|-----------------|-----|
| I | テーマ設定の理由 | 103 |
| II | 学級経営の基本的な考え方 | 104 |
| 1. | 学級経営の考え方 | 104 |
| 2. | 学級経営の機能 | 105 |
| 3. | 学級経営の内容 | 105 |
| 4. | 学級経営案の必要性 | 105 |
| 5. | 学級経営案作成上の留意事項 | 106 |
| III | 進路指導を基盤とした学級経営 | 107 |
| 1. | 学級担任と進路指導 | 107 |
| 2. | 生徒理解と自己理解 | 108 |
| 3. | 啓発的経験と進路情報 | 109 |
| 4. | 学級担任が行う進路相談 | 109 |
| 5. | 目的意識を育てる学級づくり | 112 |
| 6. | 進路指導を基盤とした学級経営案 | 115 |
| 7. | 学級目標の設定 | 116 |
| 8. | 個人目標の設定 | 117 |
| 9. | 教室環境整備の工夫 | 119 |
| 10. | 啓発的経験の推進 | 120 |
| IV | 研究の成果と今後の課題 | 122 |

浦添市立神森中学校教諭

新 垣 和 子

目的意識を育てる学級経営

——進路指導を基盤として——

浦添市立神森中学校教諭 新垣和子

I テーマ設定の理由

学級は教科の指導や生活指導を行う学校教育の基本的な単位であり、学級担任や学級集団は、個々の人間形成に大きな影響を与える。それゆえに学級担任の行う学級経営が学校教育の中で最も基本的な基盤であり、重要な任務であると考えている。

ところで、中学生の現状をみると明るく素直な生徒は多いが、将来への夢や希望をもたずただ何となく過ごしていたり、学習や生活、その他の面においても主体的に取りくむことがあまりみられない。このことは、高校生の中途退学や基礎学力の問題等と関連が深く、それが、ひとつの要因にもなっているのではないだろうか。

また、これまでの自分の学級経営をふりかえった時、下記の様な問題点も浮かびあがってくる。

1. 学級の諸問題に対して積極的に取りくむ生徒が少ない。
2. 目標に真剣に取りくむ姿勢が弱く、実践力に欠ける。
3. 自己理解が不十分で、将来の進路についても何とかなるだろうという安易さがある。
4. 個々の相談活動が不十分である。

これらの実態をふまえて、生徒一人ひとりが目的意識をもって主体的に活動できる学級経営はどうあればよいか。それは、多様な実践を通して考えなければならないが、生徒個々に目標をもたせ、それを達成するためには、進路指導の充実が最も重要であるとする。

進路指導は、「生き方」の指導を通して、「人生設計」を立てて、自己実現をめざしていく自己開発の能力を育てる指導である。それは、全教育活動を通して行なわれなければならないという基本的な考え方に立って次のような学級経営をやっていきたいと思う。

1. 生徒個々の理解につとめ、一人ひとりに目をむけた学級経営をする。
2. 望ましい人間関係を土台とした集団づくりをする。
3. 進路の学習を充実させ、計画的な相談活動を実施する。
4. 進路情報の提供を計画的に行い、進路意識を高める。
5. 啓発的経験をする機会を多く設定する。

上記のような、学級経営をすることによって、生徒が自己の進路を真剣に考え、目的意識をもって、日々の活動に意欲的に取りくむことができるだろうと思い本テーマを設定した。

II 学級経営の基本的な考え方

1. 学級経営の考え方

(1) 「学級」とは、教師の指導のもとに共通の学習作業を行う子供達の集団のことで次のようにまとめることができる。

- ① 学級は教育的集団であり、学校教育の基本的な単位である。
- ② 学級は共同の経験、共同の学習の場である。
- ③ 仲間意識が生まれ人格的な結合に高められていく集団である。
- ④ 学習指導の場であり、生活指導の場である。
- ⑤ 学級担任のとりくみが映る鏡である。

(2) 「学級経営」とは

学級経営は、教育目的を達成する手段であるとともに、それ自体が教育そのものである。また、学習指導、生活指導を行い、促進するために、生徒の実態や、教師の経営方針等から学級目標を定め、その具現化をめざして諸条件を整え、その学年に応じたよりよい教育効果をあげようとする一切の営みである。

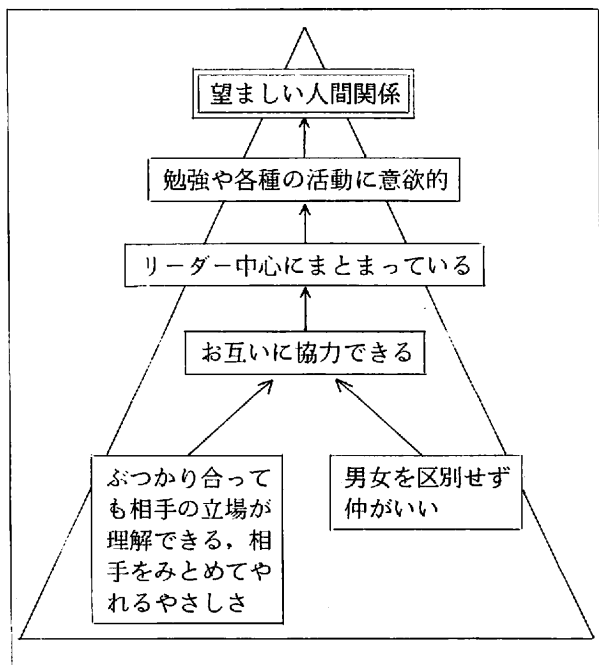
学級経営で最も大切なことは、教師と生徒、生徒と生徒の人間関係を望ましいものに育てていくことである。望ましい人間関係は お互いに理解し、助け合い、励まし合う中で育つ。誰とでも何でも話し合える仲間、認め合い、励まし合い、1つの目的に向かう仲間、そういう仲間の一人ひとりが生き生きと活動し、学習や集団活動に積極的に参加できる人間関係を育てることが学級経営の基本である。

望ましい人間関係が確立されるまでの過程を示したのが右図であり、日常の行動から観察されるいくつかの観点を構造化したものである。

「お互いに協力できる」とは、「ぶつかり合っても相手の立場が理解でき」その上、「お互いに認めあえるやさしさ」や「男女を区別せず仲がよい」という素地ができたときである。その素地の上に、学級全体が「リーダーを中心にまとまり」また、誰でもリーダーになれるという意識を育て、「各種の活動や学習に意欲的」で、やる気十分の生徒が育っていく。

それがいわゆる、「望ましい人間関係」を確立することである。

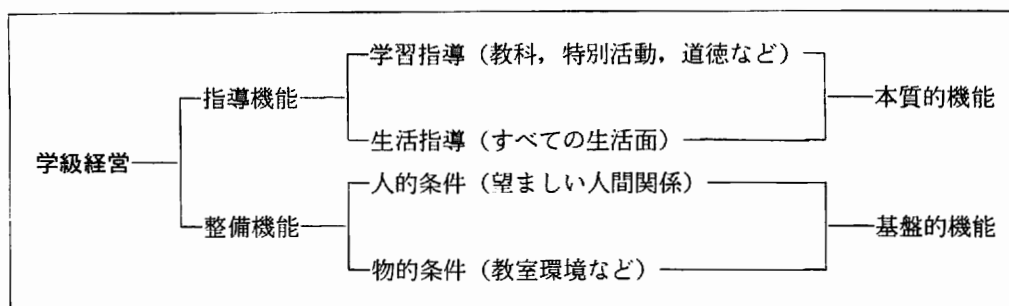
望ましい人間関係確立の構造化



(川崎市教育研究所報告書) より

2. 学級経営の機能

学級経営の機能は、教育活動を効率的に進めて、その成果をあげるために必要な諸条件を整備し、望ましい学級集団をつくりだすことである。その機能は次のような図で示すことができる。



3. 学級経営の内容

学級が、生徒の学校生活の基盤であることを考えると、学級経営つまり、学級担任の仕事は生徒の学校における生活のすべてにかかわる事ということになる。

- (1) 学級経営案の作成
- (2) 学級教育目標の設定
- (3) 生徒理解
- (4) 学級集団の育成 (望ましい人間関係・仲間づくり)
- (5) 学習指導 (授業の効率化)
- (6) 教室環境の整備
- (7) 問題を持つ子の教育相談
- (8) 行事のとりくみ (学級・学年・学校)
- (9) 保護者との連携・協力 (学級通信・家庭訪問, PTA など)
- (10) 学級事務

4. 学級経営案の必要性

- (1) 学級経営案とは
 - ① 担任の学級経営に対する計画であり、姿勢であり、かまえである。
 - ② 自からの反省から生まれてくるものでなければならない。
 - ③ 自分自身のために書くもので提出のためではない。
 - ④ 単なるプランでなく、実践の記録として累積していき、次の工夫を生み出すものでなければならない。
- (2) 学級経営案があれば
 - ① 指導の一貫性が保てる。(P・D・S)
 - ② 行きあたりばったりでなく、見通しが立てられる。
 - ③ 指導の過程で常に評価・反省・改善ができる。
 - ④ 初めに把握した生徒像や学級像に次々と資料の追加ができる。

⑤ 累積的發展性（積み重ね）を持たせることができる。

5. 学級経営案作成上の留意事項

- (1) 報告書的なものでなく、担任自ら活用できる経営案を作る。
- (2) 総合的な性格を持っている学級経営の領域の、どこに重点を置くか、経営のポイントを焦点化する。
- (3) 学級教育目標を踏まえ、学級経営の指針となる経営案であること。
- (4) 児童、生徒の期待される変容像（予想される反応）を記述しておく。
- (5) 評価の視点と項目を各計画の内容ごとに、できれば可測的なものとして設定する。

片岡徳雄の学級づくりの根本的な考え方（参考資料）

1. 心のよりどころ……………子供一人ひとりの心のよりどころとなり、支えとなる学級をつくろう。
2. 個性を大事に……………子供一人ひとりの個性や願いをそれぞれ大切にしよう。
3. 誰もがリーダーに……………いろんな集団場面に応じて、どの子もリーダーになれるようにしよう。
4. 自由で多様な考えを……………自由な考えや、さまざまな考え方を大切にしよう。
5. 誤りを大切に……………まちがいや、つまずきを恐れず、それを糧にしてのびてゆこう。
6. 創る喜びを……………集団を創り工夫してゆく喜びを見つけ、求め、大きくしてゆこう。
7. 協力を……………お互いに助けあい、力を合わせ、支えあおう。
8. 厳しさと思いやり……………自分に厳しく、相手に思いやりを、という心がけを育ててゆこう。
9. 人権を……………どの子の人権をも尊重し、どの子にもあるよさ（可能性）を引き出そう。
10. 自律を……………最終的には、個人も集団も一人立ち（または一人歩き）できることをめざそう。
11. 教師の変容……………以上のことを、何よりも教師自らが身につける（人格化する）ようにしよう。

Ⅲ 進路指導を基盤とした学級経営

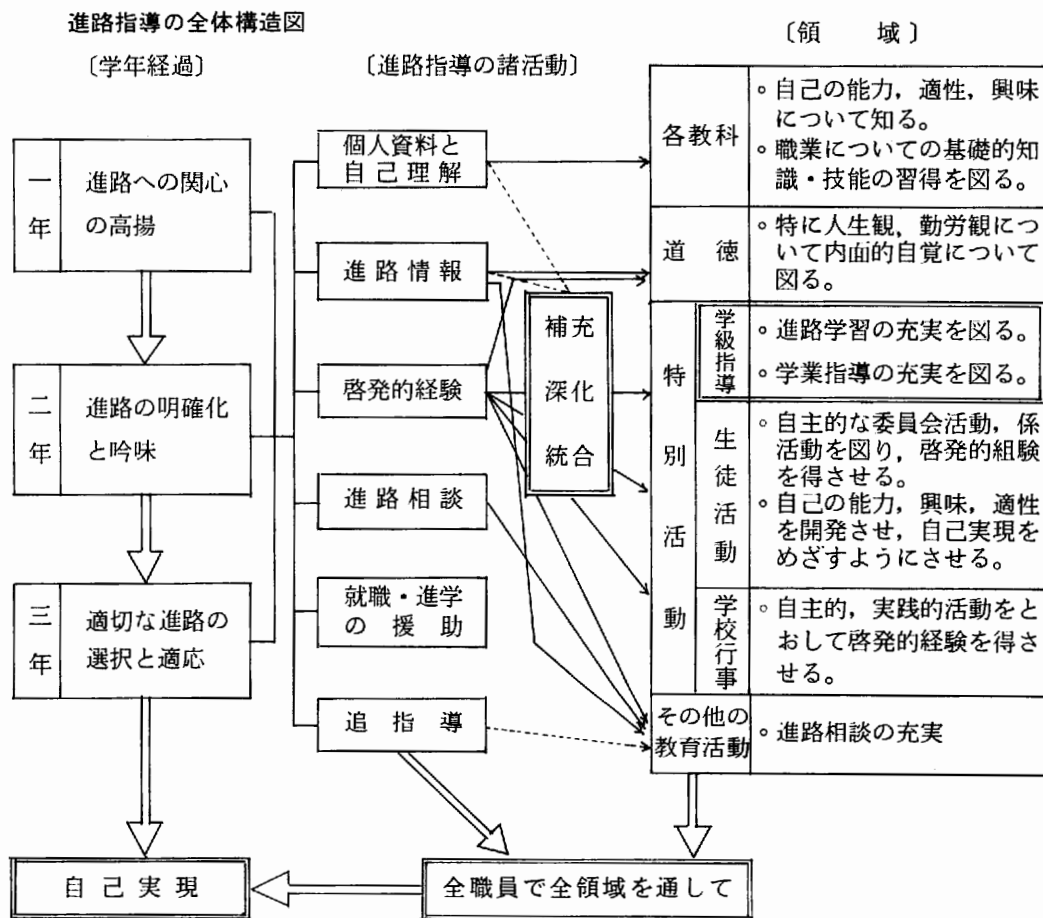
1. 学級担任と進路指導

中学校における進路指導は、生徒一人ひとりの能力・適性等の発見に努めながら、人間として望ましい生き方を自覚させ、生徒が自ら主体的に進路を選択することのできる能力、将来の生活における職業的自己実現に必要な能力や態度を育成する教育活動である。

そのためには、生徒と教師、生徒相互の温かい人間関係を基盤として、生徒一人ひとりに、自己理解を深化させ、将来の進路に関する適切な進路相談を通して職業的自己概念の形成、明確化をはかり進路を選択決定させ、将来の生活によりよく適応し対処できるように、学校の指導計画のもとに、一年生から計画的、継続的に指導・援助しなければならない。

したがって、学級担任は、平素から生徒理解に必要な資料の収集に努め、生徒一人ひとりの能力や適性、特性を十分理解する必要がある。

また、学級担任が行う進路指導は、学級指導の中で補充し、深化し、統合される最も重要な学習であり、その展開で大事なことは、学級の生徒一人ひとりの特性や進路意識の把握及び、生徒が「なぜ、将来の進路について考えなければならないのか」を動機づけ、意識化を図ることである。



2. 生徒理解と自己理解

学級経営の重要な仕事の一つは、学級内の人間関係を調整し、望ましい学級集団に高め、一人ひとりの人格をもっとも望ましい方向に育てることであり、生徒が将来、自己実現を図るための基本的態度や能力を高めることである。そのためには、教師が生徒一人ひとりをよく理解するとともに、生徒自身が自己を理解することが最も重要なことである。

生徒理解は教師によって行われ、直接的な観察のほか、検査や調査、さらには面接法など幅広い資料を総合的に活用してなされるものである。あらゆる指導は、生徒を正しく理解することから始まる。個々の生徒について個性や発達状況を理解し、どこを伸ばし、どこを改善すべきかはっきりさせることにより具体的な指導のてだてができるのである。また、指導の時期、場、方法などについても十分考慮する必要がある。

自己理解は、生徒自身が各種の個人資料によって自己の能力、適性や人格特性、興味、関心の方向など現在のありのままの姿を正確に把握することである。また、自己理解は、自己受容の態度が大切であり、その態度が形成されるにつれて、自らの経験を明確に意識化する自己洞察が得られるようになり、自己像を修正する余裕と方向も明らかになってくる。このように自己指導が行われるようになれば、将来の生活における自己実現を図ることも可能となる。

従って教師の行う生徒理解と生徒自身が行う自己理解は学級経営及び進路指導の基本になるもので常に将来の生き方について考えさせ、そのために今、何をしなければならないのか、より客観的、現実的に自己をみつめさせ自己形成をさせていくことが大切である。

生徒理解・自己理解の観点と方法

| 観 点 | | 性格・行動 | 身体的特性 | 興味傾向 | 能力・適性 | 進路意識 | 家庭環境 |
|-------|-------------|---|---|--|--|---|--|
| 方法 | 具体的観点 | <ul style="list-style-type: none"> ◦長所短所 ◦性格特色 ◦適応性 ◦社会性 ◦自主性 ◦根気強さ | <ul style="list-style-type: none"> ◦身体状況 ◦運動能力 ◦体力 ◦色 神 ◦欠 陥 ◦器 用 さ | <ul style="list-style-type: none"> ◦特技趣味 ◦教科の興味、得意 ◦作業傾向 ◦特活での特色 | <ul style="list-style-type: none"> ◦進学適性 ◦職業適性 ◦学習成績 ◦知力学力 ◦心理的特性因子 | <ul style="list-style-type: none"> ◦卒業後の希望、将来の希望 ◦進学観 ◦職業観 ◦人生観 | <ul style="list-style-type: none"> ◦家庭状況 ◦父母の職業、職業観 ◦父母の希望 願い |
| | 分析 | 生徒自己分析 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 作文・記録 | | ◎ | | ◎ | | ◎ | ○ |
| 調査 | 家庭環境調査 | | ○ | | | | ◎ |
| | 進路希望調査 | | | | | ◎ | |
| | 職業意識調査 | | | ○ | | ◎ | |
| 検査 | 知能検査 | | | | ◎ | | |
| | 進学適性検査 | | | ○ | ◎ | ○ | |
| | 職業適性検査 | | ○ | ○ | ◎ | | |
| | 職業興味検査 | | | ○ | ◎ | ○ | |
| | 性格検査 | ◎ | | ○ | | | |
| テスト | 身体検査 | | ◎ | | | | |
| | 体力テスト | | ◎ | | | | |
| 観察 | 学力テスト | | | | ◎ | | |
| | 学習状況 | ○ | | ◎ | ◎ | | |
| | 教師の観察 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 教育相談 | ◎ | ○ | ◎ | | ◎ | ○ |
| | 学級PTA(家庭訪問) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ |

3. 啓発的経験と進路情報

(1) 啓発的経験の意義

啓発的経験の指導とは、学校内外における主体的、探索的活動を通して、個々の生徒に職業生活の実際や、人間としての望ましい生き方を体験的に理解させることによって、将来の職業生活の中で、自己実現をするのに必要な知識、技能、価値観等を身につけさせることを直接的なねらいとする意図的、計画的な活動である。つまり啓発的経験によって、未知の職業の世界等に関する進路情報の理解や自己の特性等の理解を深化させることにとどまらず、これらを統合して職業観、勤労観、人生観を内面化し、さらにすすんで適切な進路選択を行い、あるいは将来の学校及び職業生活の諸側面でもより適応し、向上する能力、態度を習得することができる。

したがって、生徒の望ましい進路発達や自己形成のためにも、この啓発的経験の機会や場を積極的に準備、提供することも大事である。

① 啓発的経験の方法

- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| ア. 職場訪問 | イ. 職場実習 | ウ. 進路先の調査 | エ. 体験入学 |
| オ. 講演会 | カ. 懇談会 | キ. 映画会 | |

(2) 進路情報の意義

進路情報は、生徒が自己概念を発達させ、進路計画を立案し、進路選択を行ないさらに新しい環境へ適応し、進歩するための基礎づくりに役立つものでなければならない。進路情報はできるだけ正確で、新しく、公正なものであることが大切である。また生徒の興味や関心を高め多様な生徒の進路希望にこたえられるものでなければならない。

① 進路情報の種類

ア. 一般的情報資料

- | | |
|----------------|------------------|
| ◦先輩の進路に関する情報 | ◦学校連絡系統図 |
| ◦進路希望状況に関する情報 | ◦上級学校に関する情報 |
| ◦進学や勉学に関する情報 | ◦職業観・勤労観に関する情報 |
| ◦産業・職業に関する情報 | ◦就職に関する情報 |
| ◦職業解説カード | ◦進学・就職後の適応に関する情報 |
| ◦進路希望先調査結果のまとめ | |

イ. 生徒個々に関する情報

- | | | |
|------------|-------------------|-------------|
| ◦「私の資料つづり」 | ◦体位測定・スポーツテスト等の結果 | |
| ◦諸検査・調査の結果 | ◦進路相談票 | |
| ◦進路希望調査票 | ◦自己分析票 | ◦生徒理解表（教師用） |

4. 学級担任の行う進路相談

進路相談は学級指導の補完的役割をもち、教師と生徒が受容と共感の相互作用（ラポート）によって、生徒が自分自身をよく理解し、進路選択とそれにかかわる問題解決に自主的、積極的にとりくむことにより、自己実現への自己指導能力の発達を促進することをねらっている。教師も生徒も一個の人間として生きていくかわりの中で、人間としてどう生きていくかについて真剣に考え、学ぶことが将来あるべき自分を自分の力で探り出していけるようにしむけることである。

(1) 進路相談計画

| 学期 | 月 | 相談のための資料 | 相談のための内容 | 相談のための方法 |
|-------------|----|---|--|--|
| 一 学 期 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 作文（自己紹介，3年生になって） 指導要録（進路希望，役員経験） 調査（希望職業についての考え） 身体測定票 | <ul style="list-style-type: none"> 「3年生の出発にあたり」の作文を読んで，その作文から決意について確認する。 できるだけ早い時期に学級全員と面接し，顔をおぼえる努力をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面談（番号順） 昼食後，放課後 当番活動について観察する。 |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 調査（進路計画） 家庭環境調査（生育歴） 学習方法について 学習計画 | <ul style="list-style-type: none"> 将来の希望職業と進路計画とのかわりあいの面から話し合い 学業生活の充実をはかるよう指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面談 （計画的に時間を設定して行う） 家庭訪問では学習環境の面から観察 |
| | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 調査（趣味，特技，悩み） 自分についてのまとめ（自己分析） 中間テストに向けて，反省 職業適性検査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 学級内の人間関係の面からアドバイスする。（グループ相談） 悩み相談をとり入れ，一緒になって考える。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ相談 自発相談（週を設定） |
| | 7 | <ul style="list-style-type: none"> 調査（友人関係の推移） 期末テストの反省 一学期の反省 夏休みの計画 ゲスフーテスト | <ul style="list-style-type: none"> 学習面，学校生活の面から話し合い，自己実現するため，学習の充実をはかる。その面から父母とも話し合い，理解をもとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 三者面談（学級PTA） （生徒の学校生活の様子と学習成績について知らせる。） |
| 夏 休 み | 8 | <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの計画表 SG式進路適性検査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 長期の休みの計画をさせ，自由研究，学習計画を計画通り実行しているかを点検する。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面談 （夏休みの出校日，口直を利用して） |
| 二 学 期 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 二学期の出発にあたって（作文） 調査（進路希望） | <ul style="list-style-type: none"> 進路について個人資料を総合的にとらえさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ相談 （学習の仕方） 呼び出し相談 |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 調査（悩み，学業） 中間テストの取りくみ 学習計画 | <ul style="list-style-type: none"> 高校進学後不適應をおこさないように将来の希望と高校決定のかわりから検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ相談 （進路決定と問題点について） |
| | 11 | <ul style="list-style-type: none"> 調査（進路計画と自分） 期末テスト 友人関係の調査 | <ul style="list-style-type: none"> 進路の選び方に問題はないか，今努力しなければならないことは何かを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面接 （進路計画，学習） |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 作文（私の尊敬する人） 進路計画の検討 学習のまとめ（計画） | <ul style="list-style-type: none"> 進路個人資料を総合的に判断させる。 学級PTAで生徒，父母，教師それぞれの考え方を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 三者面接（学級PTA） （進路計画について） |
| 三 学 期 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 新年の抱負（作文） 総合テストの反省 調査（自分の一年間の歩み） 調査（進路決定にあたって） | <ul style="list-style-type: none"> 進路決定のしかたについて具体的に話し合い，科学的，観察などの資料などから総合的にアドバイスをするか，決定にあたっては，本人であることを意識させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 三者面談（学級PTA） （進路決定） 個人面接 （進路決定にあたって） |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 進路決定 高校入試願書提出 卒業式を成功させるために（意見） | <ul style="list-style-type: none"> 最終決定をおえて，人試のために不安となっている生徒をとらえ，呼び出し相談をし，自信をもたせるようなアドバイスをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面接 |
| | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業にあたって（作文） 卒業後の生活 高校入試にあたって 卒業式 | <ul style="list-style-type: none"> 高校生活に適應できるように個人と話し合う。今までしっかりと学習したので自信と根性をもってやりぬくことが大切であることをわからせる。他の先生方の激励をうける。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人面接 （これからの生活について） |

(2) 進路意識の発達過程のめやす

生徒自身に点検させることにより自分の課題をとらえることができ、また生徒個々の進路発達過程を教師が把握することができるので呼び出し相談の必要性がでてくる。

(記入の仕方は、○、△、×で記入し、学期ごとに自分の課題をとらえて相談する。)

| 月 学年 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 備考 |
|---------|------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|-------------------------|--------------------|----|
| 一 年 | 中学校の様子がわかったか。 | 中学校の各教科の学習の方法がわかったか。 | 将来の希望(夢)があるか。 | 夏休みの計画がきちんと出来ているか。 | 街の職業の種類と調査のしかたがわかったか。 | 二学期の決意ができたか。 | 自分の長所・短所がわかったか。 | 希望実現のための計画の仕方がわかったか。 | 冬休みの計画ができているか。 | 自分の将来の希望がはっきりしているか。 | 将来の希望を実現するための進路計画ができたか。 | 二年生への決意ができてきているか。 | |
| 点検 | | | | | | | | | | | | | |
| 二 年 | 二年生として学習の仕方がわかってきているか。 | 何のために自分は勉強(進学)するかはっきりしているか。 | 学校制度と勉学の機会がわかったか。 | 自分の進路希望にまよいはないか。 | 希望職業の調査の仕方がわかったか。 | 二学期の学習の決意ができてきているか。 | 自分についてまとめることができているか。 | 職業の内容と特色のとらえ方がわかったか。 | 冬休みの計画がきちんとできているか。 | 自分の特色と進路との関係で悩みはないか。 | 進路計画の検討ができたか。 | 三年生への決意はできてきているか。 | |
| 点検 | | | | | | | | | | | | | |
| 三 年 | 三年生としての目標がはっきりしているか。 | 進路選択のための諸条件がわかったか。 | 進路計画を検討・修正できたか。 | 進路に関する不安はないか。 | 希望高校について調査の仕方がわかったか。 | 希望職業のことについてよく知っているか。 | 自分について総合的に理解できたか。 | 進路先の高校について知っているか。 | 悩みについて相談の必要はないか。 | 受験・就職する手続きはできたか。 | 自分の健康に気をつけているか。 | 高校生活への決意はできてきているか。 | |
| 点検 | | | | | | | | | | | | | |

5. 目的意識を育てる学級づくり

(1) 目的意識とは

国語辞典によると、目的とは「めざすところ、めあて」とあり、意識とは、「はっきり自覚すること」とある。したがって、目的意識とは、行為の目的に対するはっきりした自覚であり、人がものごとのめあてを決め、それに向かって行動をおこす理由や意図のことであり、その考えや計画も含まれることになる。

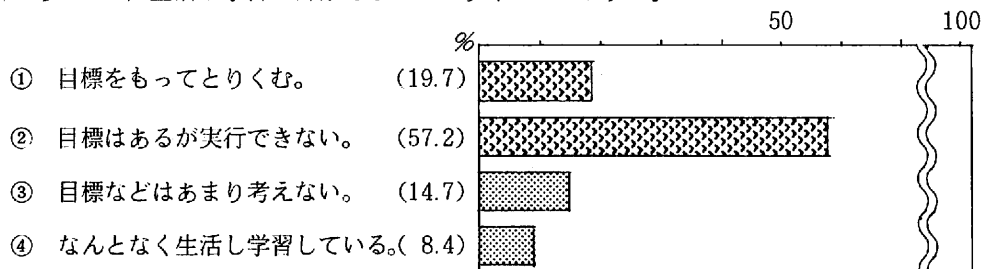
また進路指導という目的意識とは、将来、自分はどのようなことをする人間になるべきかとか、あるいは自分の人生に生きがいを感じずような仕事は何か、それを今からどういう計画を立てて、自分の考える生き方に近づけていくか、言葉をかえると「人生設計」とか、あるいは「立志」というのが進路指導で重視する目的意識である。

(2) 目的意識に関するアンケート調査

学校生活や進路について、本校の中学生がどのように考えているかを知るために、三年生を対象に意識調査をした。その結果と考察は次の通りとなっている。

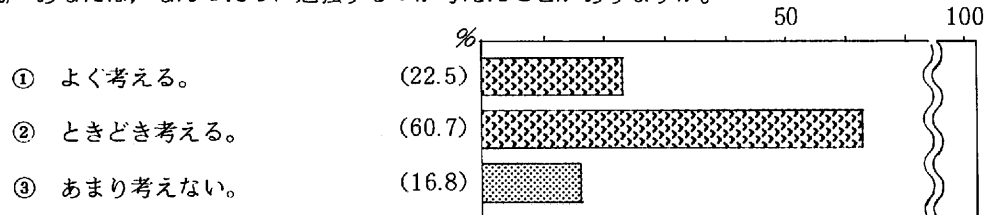
(昭和63年10月実施 調査人員 163人)

(1) あなたは、生活や学習に目標をもってとりこんでいますか。



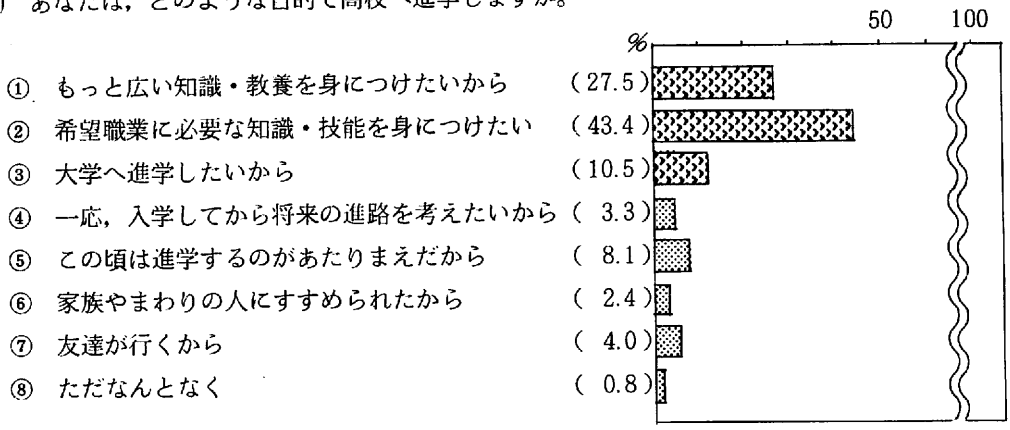
(考察) 目標をもってとりこんでいる生徒が少なく、全体の1/5程度である。目標はあっても実行できない生徒は57%以上で、努力して実行にうつせるような具体的な手だてが必要である。また、「目標などあまり考えない」「なんとなく生活し学習している」を合計すると23%以上で教育相談の必要がある。

(2) あなたは、なんのために勉強するのか考えたことがありますか。



(考察) 「よく考える」「ときどき考える」を合計すると83.2%となり、これは、自分の勉強する目的と意義を意識して考えているのならば望ましいことである。しかし悩みとして持っているならば問題である。「あまり考えない」の16.8%も学習意欲との関連があるので一考を要する。

(3) あなたは、どのような目的で高校へ進学しますか。



(考察) 「広い知識・教養を身につけたい」「希望職業に必要な知識・技能を身につけたい」「大学へ進学したい」を合計すると81.4%で、三年生なので意識も高い。ところが、高校進学が消極的な④から⑧の項目を合計すると18.6%もいる。とくに、「この頃は進学するのがあたりまえだから」と答えたのが8%もいて、そのような進学への動機がいまいさ、すなわち、将来への目的意識の低さが高校中途退学につながる原因となるのではないか。「なんのための進学か」「なんのために勉強するのか」ということ、すなわち、学ぶ目的と意義をきちんと理解させる必要がある。

実態調査分析結果の課題

1. 目標をもってとりくんでいる生徒が少ない。
2. 目標はあっても実行できない生徒が多い。
3. 悩みのトップは勉強のことで、次に進路である。
4. 教師に望んでいることは進路の個人相談である。

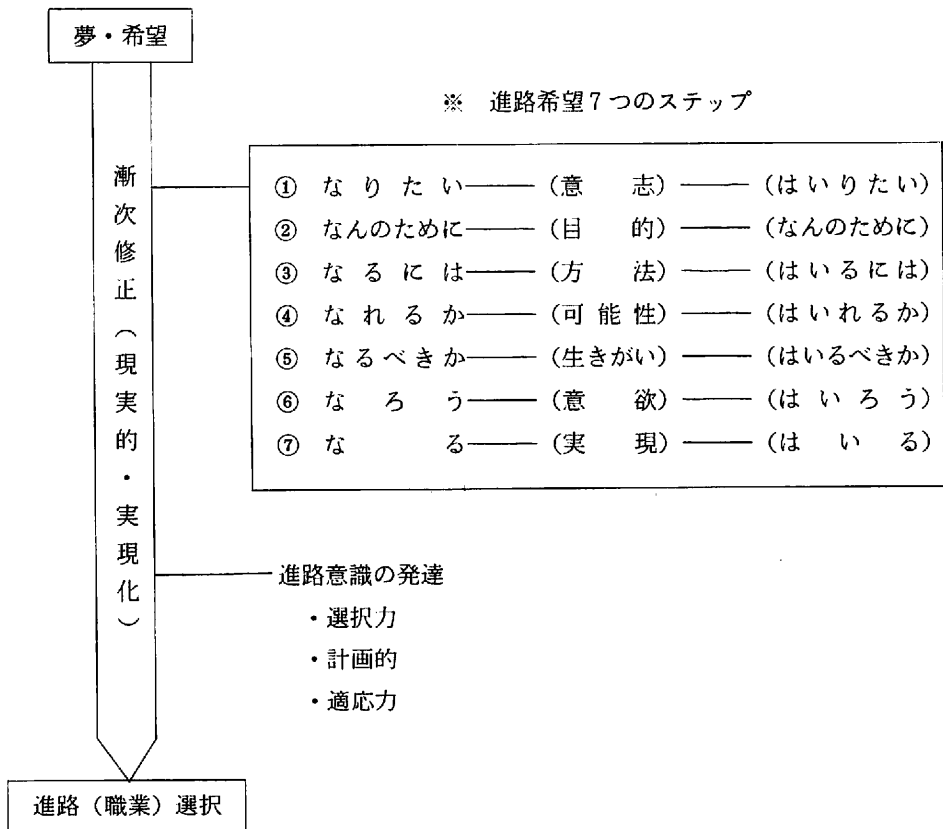
(3) 目的意識を育てる意義

「夢は青少年の成長の原動力である」といわれている。夢、すなわち目的意識というものはふだんの勉強と深い関係をもっている。夢をもっているか、いないかということは勉強の意欲と大きな関係をもつことであり、ひいては人間の成長に大きな影響をもつ。つまり、目的意識は、進路の選択だけの問題ではなく、ふだんの学習態度と大きな関連をもっている。

ところが、アンケートの結果にみられるように、目標をもっておりくんでいる生徒が少なくまた、目標はあっても実行できない生徒が多数で、そのことが、いらだちや意欲を欠く原因になり、多くの問題行動につながっていくのではないかと思う。

したがって、一人ひとりの生徒に将来の希望や、目標を考えさせ、やる気を起こさせ、着実に努力する姿勢をつくるのが大切であり、学級担任が学級経営を通して積極的に働きかけることが重要である。

(4) 目的意識の形成ステップ



6. 進路指導を基盤とした学級経営案

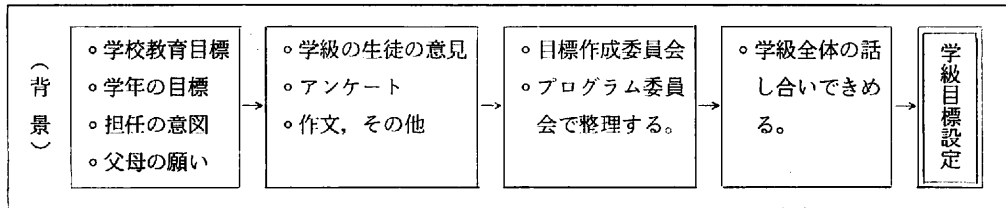
| | |
|---|--|
| <p>(1) 学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ よく考えて行動する生徒 ◦ ねばり強く学習する生徒 ◦ おもいやりのある生徒 ◦ 進んで働く生徒 ◦ 健康でたくましい生徒 <p>(2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学習意欲に満ちた生徒の育成 ◦ <u>特別活動や道徳教育の実践・充実を図る。</u> ◦ 環境の整備・美化につとめる。 ◦ 生徒指導の充実をはかる。 <p>(3) 学年目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分を大切にし、自分の良さを伸ばし、他人の良さも発見できる生徒を育てる。 ◦ 学習の意義を理解し、自ら進んで学習する生徒を育てる。 ◦ <u>自分の将来の進路について深く考え、望ましい進路を決定する生徒を育てる。</u> ◦ 学級活動や各種の行事を通して協調性の大切さを知らせる。 ◦ 豊かな心をもち、美しい環境づくりに努める生徒を育てる。 ◦ 体を鍛え、常に健康の保持・増進に努める生徒を育てる。 <p>(4) 学級目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 真剣に学び、助けあって、よく活動する学級 ◦ <u>目標をもって着実に実践する学級</u> <p>(5) 学級経営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 生活態度をしっかりとさせ、心豊かな人間性を育てる。 ◦ 学習意欲をもたせ、真剣に学ぶ態度を身につけさせる。 ◦ <u>望ましい進路決定ができるように、自己をみつめさせ、目標をもって努力する生徒を育てる。</u> | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分の考えや意見をはっきり述べさせ、言動に責任をもたせる。 ◦ 最上級生として自覚させ、すべての活動に骨惜しみしない姿勢を育てる。 <p>(6) 学級の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 明るく素直な生徒が多い。 ◦ <u>将来を真剣に考え、学習する生徒が少ない</u> ◦ 自主的な学級活動ができない。 <p>(7) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 基礎学力が定着するように家庭学習の習慣化を図る。 ◦ 協学習習や読書活動を充実させる。 <p>(8) 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 基本的な生活態度の育成を図る。 ◦ 人の話をしっかり聞ける態度を育てる。 <p>(9) 道徳教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ <u>自分の生き方について考えることができるようにする。</u> ◦ 善悪の判断ができ、正しく行動ができるようにする。 ◦ 相手の立場に立って考えることができる。 <p>(10) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 話し合い活動に進んで参加し、自分の意見を発表できるようにする。 ◦ <u>啓発的経験をとり入れ、自己理解をさせる。</u> ◦ <u>職業観の確立と進路選択の能力を養う。</u> ◦ <u>教育相談をできるだけ多くもつ。</u> <p>(11) 教室環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 整理整頓された美しい教室にする。 ◦ 効率的な掲示を工夫する。 ◦ 生徒の活動状況がわかるように工夫させる。 <p>(12) 父母との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ <u>進路情報を提供し、父母の進路への関心を高める。</u> ◦ 家庭訪問や電話連絡を密にして、望ましい生徒理解につとめる。 |
|---|--|

7. 学級目標の設定

学級目標は、学級集団のより望ましい姿や、より望ましい生徒像を掲げ、一人ひとりの生徒の人間形成をめざした組織目標である。その目標は教師の指導のもとに、子供達の願いや要求を吸いあげつつ、学校教育目標の具現化を図るものであり、教科学習や学校生活すべての活動の中での努力目標となる。したがって、学級目標は、生徒の自分達の問題であるという意識と積極的な取りくみがなければ、形式的な掲示物となるので、十分話し合わせ、学級集団への連帯感を高めながら「やる気」をもたせることが重要である。

学級目標設定の手順、学級経営の中での位置づけ、おろし方をまとめると大体次のようになる。

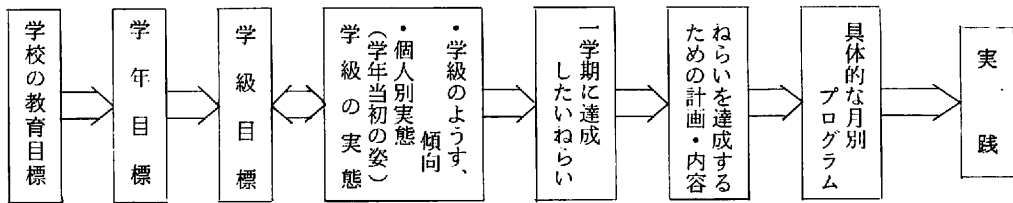
(1) 学級目標設定の手順



※ 学級目標設定のポイント

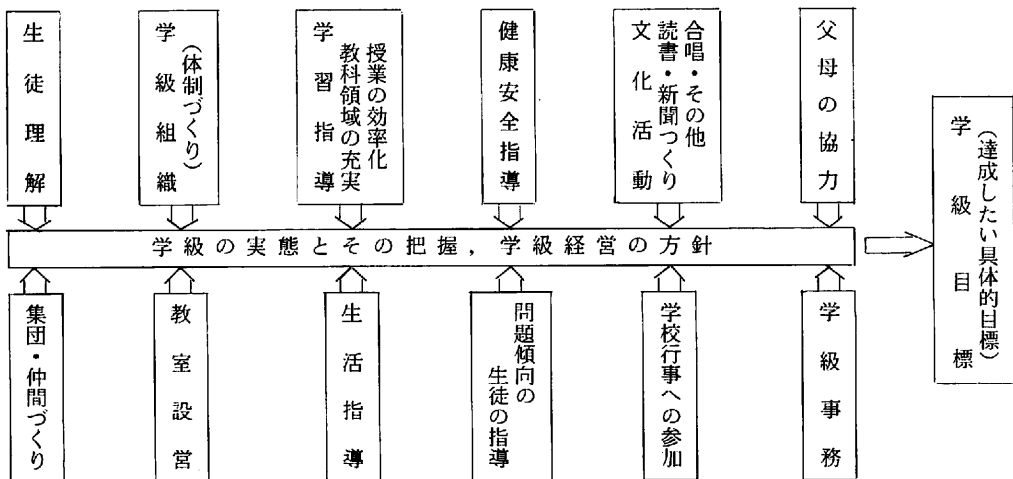
- ア. 学校教育目標や学年方針など検討し、その実現が図られるもの。
- イ. 目標や形式は、具体的でわかりやすく、実現可能なもの。
- ウ. 学級の個々の生徒の願いや期待が盛り込まれたもの。
- エ. 教室正面上方に掲示し、常に意識させること。

(2) 学級目標のおろし方



※ 学級目標の具現化のためには、きめ細かな計画が必要である。実践にあたっては、点検、修正を行うようにする。

(3) 学級経営案の中での位置づけ



※ 学級経営案の内容は、大体以上のようなものであるが、これらはすべて学級目標達成に向けての計画であり、方針でなければならない。

8. 個人目標の設定

アンケートの結果にみられるように、本校では目標をもたずになんとなく生活している生徒や、目標はあっても実行できない生徒が多いという実態をふまえて、個人目標の立て方にはとくに指導のてだてが必要である。

(1) 個人目標設定の基本的な考え方

個人目標設定のための調査には、いろいろな方法や手続きが考えられるが、基本的には次のような事項に留意して調査する必要がある。

① 地域や学校・学級への適応、不適応

環境への不適応がある場合は、個人目標どころか、不適応による心理的圧迫で学校生活全体がおもしろくなくなる。学年当初は学級不適応現象が現われることもあり、担任はその除去や克服に努めなければならない。

② 人生観、生きがい

何に生きがいを感じているのか、将来の希望は何であるのか、或いは無目的であるのか、生き方について、絶えず自己啓発しなければ目標はみえない。

③ 教科の得手不得手、好き嫌い

得意なものを伸ばすのか、不得意科目を克服するのか明確におさえる。

④ 体位体力、容姿の特徴

中学生の頃は、自分の健康や身体的特徴について敏感であるのでこの面から目標に迫る手だてもある。

⑤ 性格の特徴

自我意識が発達し、性格にも気をつかうようになる。性格を変えることは容易ではないが、精神の鍛練という面から迫る方法がある。

⑥ 趣味・特技

個性や能力が開発され、趣味や特技の方向性も芽生えてくる。これが、はっきりしている子は生活が充実している。

⑦ 自分の好きなことばをさがす

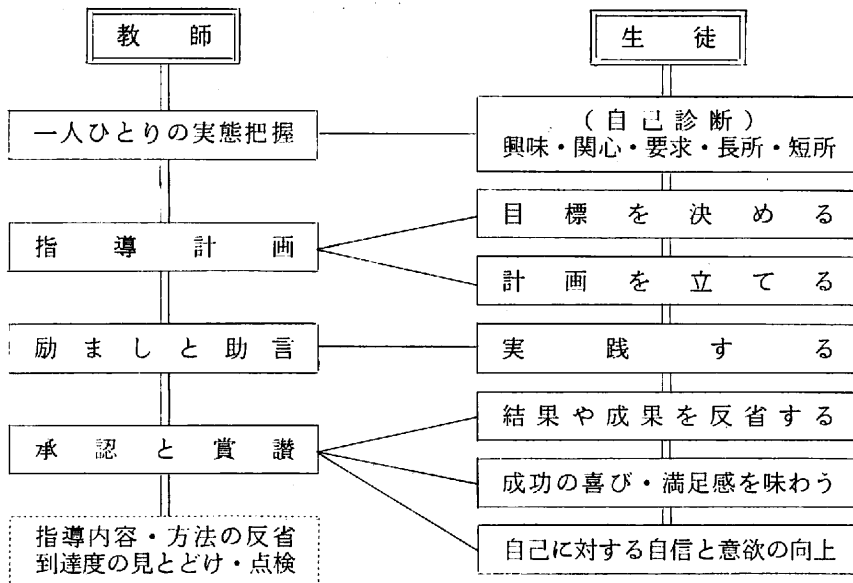
一面、自己の目標でもある先人の名言や格言、ことわざ等によって自己暗示を導き出すことも可能である。

以上のことを基礎的調査項目（自己理解資料）として、これを総合的に見わたして、自己像を客観的に浮かびあがらせて自己確認させることが必要である。

また、目標設定にあたっては、長所を伸ばすのか、短所を補うのか明確にすることが大切である。目標を決定したら、自分に呼びかけできるところに掲げておくなりして、絶えず自己点検ができるように工夫させることが必要であり、学級においても掲示して意識づけることも一つの方法である。

また、目標とした理由や、実行するための具体的な方法や、計画について書かせ、実行できるように指導することが大事である。

(2) 個人目標の設定と指導サイクル



(3) 個々の生徒の状況への対応

一人ひとりの生徒が、次の例のいずれの状態にあるかなどの視点から、生徒をよく観察し、理解して指導にあたることが大切なことである。

① 問題意識をもっていない生徒

これは、あることをやらなければならないことに気づいていない生徒、または、やっではいるが改善を要することに気づいていないような生徒である。「このままで何とかなるだろう」などと思っている生徒である。

② 理解が不十分で不安に思っている生徒

これは、そのことに対して知識が乏しく、または、未経験なことのため不安に思っている生徒である。例えば、新入生が新しい学校行事や生徒会行事に参加する場合や、自分の進路や進学校を選択する場合など数多くの場合がある。

③ 必要感はあるが、実行できない生徒

これは、方法がわからないでやらずにいる生徒、おかれている条件が悪くて実行に移せないなどの生徒である。このような生徒に「実行できないのは意志が弱いからだ」などときめつけてはならない。実行できない原因をいろいろな角度から分析し、本人の心がけしだいで解決できるものとそうでないものを正しく見きわめる必要がある。

④ 実行しているが、効果が上がらないで不満に思っている生徒

これは、一生懸命やっているが効果があがらず、悩んだり、困ったり、不満であったり不愉快であったり、自分で自分がいやになったり、劣等感にさいなまれたりというような生徒である。こういう生徒が実行をあきらめたり、投げ出したりする前に指導しなければならない。

⑤ 実行中に失敗したり、壁に突き当たったりしている生徒

これは、挫折感や敗北感に打ちのめされている生徒である。このような生徒には、どういふことで失敗し、壁に突き当たっているのかによって、いろいろな形で表面化するが、

挫折感や敗北感を取り去る指導がすぐにでも必要な生徒である。

⑥ 成長に伴ってさらに自己を深めたり、高めたりしたいと考えている生徒

これは、いままでやったことが一応の成果をおさめている生徒である。しかし、もっとよい方法はないか、もっと向上したいなどと考えている生徒である。動機づけに重点をおき、知識→方法→実践という手順を踏んで指導することが必要な生徒である。

以上のようなことを考えただけでも、不用意で形式だけの学級指導では、一人ひとりの生徒の内面に触れる指導、生活態度を向上させる指導をすることはできない。

9. 教室環境整備の工夫

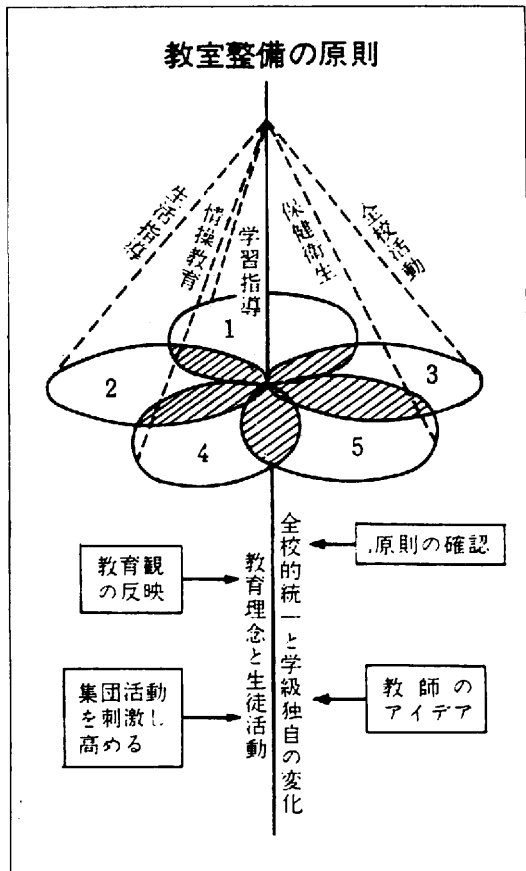
教室は、人的環境と物的環境によって成立する。物的環境が人間の感情や活動を大きく左右することを考えると教室整備も学級経営の重要な仕事の一つである。

無目的に雑然と配列したりしないために次の五つを原則として考え、必ず何らかの意図をもった整備であることが大切である。

- (1) 学習指導の場をつくる目的のもの。
- (2) 生活指導の場をつくる目的のもの。
- (3) 全校活動との関連をもたせるもの。
- (4) 情操教育のためのもの
- (5) 保健衛生上のためのもの

以上のことから実践上留意すべき点は、次の三つである。

- ① 教師の教育観に裏づけられた指導のアイデアを基礎とすること。
- ② 教室整備が生徒の生活と遊離したものでなく、なるべく生徒活動の投影であること。
- ③ 教室が常に生き生きと動いているということ。



従って、教室の環境整備は、まさに教師と生徒の目的意識によって創られるものであるといえないだろうか。

また、進路指導の面においては、各学年の発達段階に応じた、意識づけになる進路情報等や生徒に考えさせる資料等を掲示することも必要であり、進路コーナー等も設けて工夫することが必要である。(例、人間の生き方に関する本の紹介、新聞の切り抜き、進路への関心を高めるもの。上級学校に関するもの。職業観形成の援助に関するもの。適応と自己実現に関するもの。)

10. 啓発的経験の推進

(1) 職場訪問

ねらい 将来の希望する職業について、実際に仕事をしている人々から、話を聞いたり、職場を見学したり、または体験することによって、その職業について理解を深め、意識を高めることにより、将来の目的達成のために「人生設計」を考えたり、日常生活を意欲的に取りくむ態度を育てる。

- 方法
- 事前に訪問先にハガキ、または電話で依頼しておく。
(訪問の趣旨・日時、参加人員、質問項目をプリントにして送る)
 - 希望職業によってグループ分けをし、係の分担をしておく。
(グループ長、記録係、質問者、写真係、録音係、その他)
 - 事後にお礼の手紙を書く。

調査項目

1. 調べる職業名、インタビューした人(名前、性別、年齢、職場名)
2. 職業の内容や特色
3. この職業の長所や短所(良い点やいやな点)
4. この職業を選んだ理由
5. この職業に必要な資格と免許、その取得の方法
6. この職業につくための適性
7. 働く時間や給料
8. この職業を希望している中学生へのアドバイス
9. 職場訪問後の感想

感想

ぼくは、医者という仕事は、白衣を着て人の病気を直したり、命を助ける仕事だから、いつも、かっこいいと思っていたが、高江洲先生の話を聞いて、じつに大変な仕事だなあと思った。看者の病気が直って退院の時は、様子をたいに感謝されるが、死んだ時など、とても悲しくて苦しいです。また手術の時や手術後も、看護婦さんや、他の医者さんと、チームプレーをするので人と人との協力心が必要であり、体力も必要だから、中学生の頃から勉強も身体もきたえてくださいとアドバイスがあった。

ぼくは、なれるかどうかまだ自信はないが、とにかく今まで通りジョギングを続け、体をきたえ、これからの勉強は真剣に取り組みたいと思った。

◦ 左の感想は職場訪問後の生徒の感想である。

働く人達は、自分の生き方を真剣に語ってくれるので目的意識も確実に育っていくことがわかる。

また、これを父母を通して調べることも一つの方法である。

(2) 学校調査と体験入学

ねらい 進学を希望する上級学校について調べ、または体験入学をすることにより、自己理解を深め、進路計画や、進路選択の参考にする。

方法 事前に訪問先の学校に、ハガキ、または電話で依頼しておく。時間は放課後が主であるが、体験入学等は高校側の企画があるので、それを活用するのも一つの方法である。

調査項目

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 所在地，電話番号 | 9. 生徒会活動 |
| 2. 通学方法と所用時間 | 10. クラブ活動 |
| 3. 歴史 | 11. 校則 |
| 4. 教育目標と方針 | 12. 中途退学者 |
| 5. 課程，学科名，定員 教育内容，特色 | 13. 卒業後の資格，免許 |
| 6. 施設設備の特色 | 14. 卒業生の進路状況 |
| 7. 入学時の諸経費 | 15. 進学，就職についての対策 |
| 8. 行事（学校，生徒会） | 16. 志願者への希望，助言 |
| | 17. 調査後の感想 |

(3) 先輩からのアドバイス

ねらい 生きた体験を先輩から学ばせ、自己の将来の進路決定に意欲的に取り組む態度を形成する。

方法 進学を希望する高校ごとにグループをつくり、アンケートの形式か、またはインタビューの方法で行う。

質問項目

- | |
|------------------------|
| 1. 現在の高校に入学した理由 |
| 2. 進路決定で一番苦労したこと |
| 3. 入学後苦労したことや悩んだこと |
| 4. 入学後楽しかった事や良かったと思うこと |
| 5. 進路決定に向けての後輩へのアドバイス |

(4) その他 「自分史」を作ることも一つの方法である。生まれてから現在までの、15年間にわたる自分史を、親に聞いて写真なども利用し、「作文」や「年表」「新聞」の形式で、親の人生や自分の成長とのかかわりをもたせながら書かせるのも、職業や進路についての考えを深めることができる。

このように、学級担任が創意・くふう、すなわち「やる気とアイデア」によって、多様な実践をすることにより、目的意識は高められ、育てられ、生徒一人ひとりが進路に関心を持ち目的意識をもって日々の活動に意欲的に取りくむことができると考える。

IV 研究の成果と今後の課題

四カ月という研修期間で、欲ばったために最後までつまづきが多かったことを反省している。しかし、このつまづきのために多くの文献に接することができたのは成果の一つである。

これまで進路指導を基盤として、「目的意識を育てる学級経営」をテーマに取りくんできたが「決められた学級経営の方法」というものがないだけに、「教師のやる気とアイデア」によって、子供の可能性をひきだし、学級も創造することができるということと、担任としての責任の重大さを痛感した。

また、学級経営においては「生徒一人ひとりの人間的な成長」と「学級集団づくり」の重要性を再認識し、これまでの自分の姿勢や学校における役割を冷静に反省することができた。そして最も大きな成果は「教育研究の仕方」がわかったことである。

中学生が将来の目標をたて、それに向かって努力し、自分の生き方を確立することは容易ではないが、ここで得た成果を生かし、学校現場でさらに研修を深め、実践につとめたいと思う。

今後の課題

1. 一人ひとりの実践力を育てる学級経営のあり方
2. 一人ひとりの実践力を育てる相談活動のあり方
3. 学級経営の評価について
4. 進路指導の充実を図る
 - ① 授業実践と指導案づくり
 - ② 進路学習後の相談活動のあり方
 - ③ 情報資料の収集、整理、活用のやり方
 - ④ 進路指導の評価について

主な参考文献

- | | | |
|-----------|-----------------|---------------|
| ・宇留田敬一 | 「中学校学級経営事典」 | 小学館 |
| ・宇留田敬一（他） | 「中学校学級担任実務事典」 | 暁教育図書株式会社 |
| ・古谷竹三郎 | 「中学校の学級経営」 | 明治図書 |
| ・吉本二郎（他） | 「人間味のある学年・学級経営」 | 東京書籍 |
| ・大浦 猛（他） | 「中学校学級経営の理論と実践」 | 新光閣書店 |
| ・阿部憲司 | 「新進路指導事典」 | 第一法規 |
| ・荒井昭雄（他） | 「生徒理解のすすめ方」 | 実務教育出版 |
| ・田中藤吉（他） | 「学級担任の行う進路指導」 | 日本進路指導協会 |
| ・水戸谷貞夫（他） | 「進路指導実務必携」 | 第一法規 |
| ・大城幸子 | 「進路指導研究大会誌」 | 沖縄県中学校進路指導研究会 |
| ・山口政志（他） | 「目的意識を育てる進路指導」 | 日本進路指導協会 |